

## 竹内緑を支えるルワンダの会 ニュースレター No.6(2017年1月)

### 「ルワンダの内戦により、トラウマ（精神的外傷、心的外傷）を負った人々を癒すための活動を続ける竹内緑さんを支える会」

ルワンダより新年のご挨拶を申し上げます。新しい歳が皆様にとって豊かな年となりますように、お祈りいたします。

来る2月、私たちの働きが始まって3年目に入ります。ここまで導き支え助けて下さった主に、そして祈りと捧げものによってこの働きに加わってくださった皆様に感謝申し上げます。お陰様でトラウマを癒す働きは、小さいながらも良い結果をもたらしています。

2015年2月1日、夫から暴行を受け「夫に殺される・・・」と言って助けを求めて来た女性を受け入れ、シェルターを提供し全人的な支援を行って、2016年7月に支援を終了しました。現在までのところ、夫婦の関係及び経済的状况など問題はないようです。この女性は、成功裏に支援を終了した第一号です。

昨年の7月、この第一号の女性・アドリンの支援を終了した式典を行いました。アドリンと夫、3人の息子たち、ご夫妻の親族及び地域の人たち、そして私たちの受益者を合わせて70人余りがお祝いに参加しました。式典では、聖書から夫婦のあり方が語られ、歌と踊り、家族への祝福の祈りの後、食事をして神への感謝と一家の再出発を祝いました。

この式典の前日、アドリンご夫妻から打ち明けられたのが、「式の中で結婚指輪の交換をしたい」というものでした。そこまで考えていたことに驚きつつ感動をもって聞いたことでした。そして、当日、牧師によって指輪の交換が行われました。おそらくアドリンご夫妻は、結婚式を挙げていなかったのでしょうか。この終了式は、さながらご夫妻の結婚式と披露宴のようでした。

式の中でアドリンは、「私には二人の母がいる。ひとは実母、もう一人はみどりです」と語りました。そして、夫は「私は変わりました。以前は、薬物やアルコールを乱用し、売春婦の所へ通っていましたが・・・」「神さまは、私を創りかえるために日本から人を送られた」と言ったのでした。

最近、私が体調を崩していた時、彼女から電話がかかって「病気だと聞いたので電話しました・・・」と言うのでした。支援の終了後もこのような関係を保持できるのは、嬉しいことです。私たちは、今後もアドリン家族を見守ってゆきます。

他の受益者・アルフォンシンとバレンティンも、今年の6月頃までには支援を終了できると見込んでいます。ふたり共に縫製を1年間学び、バレンティンには4月、アルフォンシンには7月にミシンを供与して経済的自立が可能となるようにしました。ミシンは、電動ではなく足踏みのもので、二人が居住する社会的背景を考慮し新品ではなく中古を供与し、値段は日本円に換算して1万円相当でした。子供3人と暮らすアルフォンシンには、支援を終了する準備として、現在食費の減額を始めました。これによって支援の終了が可能か否かを

確認します。

そしてもう一人、大虐殺によって重いトラウマを負った女性と彼女の実子7人とは、長いお付き合いになりそうですが、この女性・アタナジィが新年の1月14日、洗礼を受けました。彼女が受洗に至った要因は、主にふたつあると思っています。

その一つは、アタナジィと同じく大虐殺によって多数の肉親を失った女性の体験を聴いたことに因ります。

昨年、アタナジィは洗礼を望んでいた時期がありましたが、教会から離れ、それと共にアルコールを飲む回数が増え生活が乱れてゆきました。この対策のひとつとして行ったのが、同じ体験をした人から話を聴くことでした。

10月、かつて私がトラウマの実態調査を行ったカモ二郡ニャルバカ町より、20年以上に渡って町内のトラウマを負った人たちに寄り添っている女性・デフローザをリリマへ招待しました。デフローザは、大虐殺で夫、両親、息子、兄弟姉妹など愛する人を失い、自身もトラウマの症状に苦しみながら、今日までどのように生きてきたかを語ってくれました。夫が亡くなった当時、彼女は28歳でした。再婚の可能性があったにも関わらず独身を貫いたのは、夫以外の人を愛することが出来ないと考えたからでした。そして、トラウマを負った人の多くがアルコールに依存しているように、デフローザも眠れないためアルコールを飲んでいました。ある日、断酒を決断し、即日アルコールから解放されたと言います。寡婦の貧しい家庭でありながら、庭に実ったバナナを市場で売って少額を貯蓄し、2軒もの家を建てたのでした。

デフローザとアタナジィは、同じような背景で生き方は対照的ですが、今日までデフローザを支えたのは信仰であり、祈りでした。彼女の篤い信仰に触れたアタナジィは、「私も変わりたい。祈りを学びたい」と願うようになったのです。

もう一つは、12月上旬、アタナジィの次男・ジェロームが熱傷を負いました。その治療のため、街の病院で過ごした10日余りがアタナジィに良い影響を与えたのです。

ジェロームの熱傷は、背中半分と左腕の3分の2という広範囲でした。受傷直後より近くのヘルスセンターで治療を受けていましたが、病院への転院を勧められ入院をします。そして、大部屋へ入りましたが、同室には重篤のAIDS患者がいたため、医師より「感染の可能性があるので首都の病院へ移るように」と言われました。しかしながら首都までは遠く、私たちは有料の個室へ入ることを選択しました。個室の一日の料金は約千円、保険の適応外です。千円という金額は、子供3人と大人ふたりの5人家族へ支給している1週間分の食費に相当します。ジェロームは10日間、個室へ入っていましたが、その金額はスタッフのひとりの1か月分の給与を上回ります。アタナジィは看護師から、「個室の料金を支払うことができるのか・・・」と言われたそうですが、彼女だけでなくルワンダ人の多くが支払うに容易な金額ではありません。ジェロームが私たちの支援下にあったことは、幸いでした。結果、ジェロームの熱傷は実に見事に治癒しました。これらを認識した彼女は、神に感謝を捧げ「よく祈った・・・」と言います。

加えて私たちのスタッフが献身的に二人を支えました。入院中、患者への給食はありません。その為、女性スタッフ・ふたりが交替で毎日3食を運びました。公共の乗り合いバスを使って、毎日食事を運ぶことは容易ではありません。

私がこの食費について言及すると、彼女たちは「これは私たちの義務です。お金は要りません」と言うのでした。察するに、13歳で孤児となって20年以上、アタナジィの周囲にこれほど親身になってくれた人はいなかったと思います。このスタッフの献身的な姿が、アタナジィの心に強く響いたようです。

アタナジィは良い意味で変わりました。ジェロームの熱傷は、神の導きと助けと祝福でした。過去20年余り、遣わされたアフリカの国々で度々無力感を味わいましたが、ジェロームの件は理論と実践が合致し満足です。再度、祈りと経済的に支えてくださった皆様に感謝を申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

2017年1月22日

キガリにて

竹内 緑

### 祈りの課題

- 1、 5月から6月にかけて、日本の教会で報告を致します。  
このための良い準備ができますように。
- 2、 受益者の子供たちが病気や事故、全ての悪しきものから守られ心身共に健やかに成長しますように。
- 3、 アタナジィがアルコールから解放されますように。
- 4、 支援の輪が広がり経済的必要が満たされますように。
- 5、 この働きの中における私の決断が適切でありますように。



指輪を交換したアドリンゴ夫妻



アドリンゴ夫妻と息子たち



ミシンを踏むアタナジィ



入院中のジェロームとアタナジィ

## 竹内緑を支える会のホームページが開設されました

今後、現地からの報告など掲載していく予定ですので、ホームページで活動の様子などお知らせ出来ると思います。

<http://midori-rwanda.com>

## 2016年支援金の報告（1月1日～12月31日）

竹内緑を支えるルワンダの会への支援金有難うございます。竹内緑氏のルワンダでの活動の様子につきましては、ニュースレター及びホームページでご報告していますが、与えられた活動資金をやりくりし、頑張っ活動していらっしやる様子がうかがえます。皆様の更なるご支援よろしくお願いたします。

### 正会員の方々（敬称略、順不同）

江原雅子、田代麻里江、棚橋ヒデ子、柳沢美登里、吉田君子、西村博美・保興子、福田眞弓、久留米聖書教会、門倉治美・京子、中本孝志、吉田淑子、金子玲子、須山弘子、鹿又美穂子、武宮眞理子、林誠子、村上紀子、吉田房枝、中島順子、西本玲子、松井茂美、永田京子、奥田育子、中島幸一郎、押方恵・愛子、酒巻佐代子、辻雅彦・有紀、慎貞子、浮田一範、下田ひとみ、岡ふみ子、林多美子、三木紀昭、三浦由佳、森田哲也・いずみ、竹澤三佳子、端戸朋子、日本基督教団米子錦町教会、端戸頼樹・珠代、原匡邦・かや、江原修・雅子、溝口葉子

### 賛助会員の方々（敬称略、順不同）

大西雅廣、山内啓子、田谷啓子、大下美穂、深井光、木下伸子、太田径子、牧江享子

### 寄付を頂いた方々（敬称略、順不同）

加藤由利、大森広明、中島桂子、日本基督教団用瀬教会、田谷元義・啓子、藤永芳美、谷口佳代子、福岡女学院看護大学宗教部、日本基督教団八頭教会オリーブの会、坂田陽子、鳥取福音ルーテル教会、忍ヶ丘キリスト教会（ルワンダ光牧場）、日本基督教団湖山教会、日本基督教団八頭教会、澤村宏子、日本基督教団天城教会、久留米聖書教会、岡田栄子、日本基督教団笠岡教会、稲城聖書教会、鳥取福音ルーテル教会ルワンダ支援会、臼井安紀子、刈谷キリスト教会、高岡バプテスト教会教会学校、東邦子、小山憲子、小山真、吉川美喜、将積祐子、湊昌子、松崎京子、山室勝子、猪股千穂子、谷尾和彦・洋子、六浦寿子、橘たか代、竹田純子、小平照夫・邦子、大門節子、荒木正三、江原雅子、山戸純子、吉田郁子、道祖尾博子、大瀬勝昭、高尾美貴、中村澄子、内田玲子、江原修、高田恵、下田富紗恵、岸清志、棚橋ヒデ子、吉田雅尚、幡江美智子、露芝経子、野中ちひろ、山本伸子、増田千尋、河合朝子、四井幸子、成田節子、吉田由紀子、あすかのキリスト教会、山下幸子、中原伸一郎、樋口シヅ子、日本基督教団湯沢教会、福嶋知恵子、吉田佐和子、佐藤園子、青木愛、西本多美子、奥村満貴子、金子玲子、鳥取福音ルーテル教会バザー委員会、上野芝キリスト教会有志、中山春美、片岡継、栗本一実、大瀬勝昭、浦和基督教会姉妹、金山基督教会名古屋、高尾利彦・純子、福岡女学院、伊田公一、飯島多稼雄、高尾美貴、草加福音自由教会、いのちの樹教会、川口福音自由教会、新井宏、湘南グレースチャペル、桜ヶ丘基督教会婦人会、立川福音自由教会、麦の会、勝原洋子、ニューコミュニティー西宮チャペル、ウチノイクコロインボー、オリタヨウコ、在鳥取女性有志

## 会計報告

### 収入 (2016年1月～12月31日)

2015年繰越額	1,575,165 円
	(銀行口座 708,317 円)
	(振込口座 866,848 円)
2016年郵便振込額	1,896,455 円
2016年銀行振込額	596,453 円
本代	36,635 円
受け取り利息	99 円
合計	4,104,807 円

### 支出 (2016年1月～12月31日)

竹内緑氏活動費	2,000,000 円	
(2016年活動費)		2017年繰越金
ニュースレタ印刷、発送費	28,748 円	通帳残高 783,401 円
ホームページ作成・維持費	8,023 円	振込口座 1,250,183 円
ルワンダへ物資輸送費	20,900 円	合計 2,033,584 円
事務費 (郵便振込手数料等)	13,552 円	
合計	2,071,223 円	

### 竹内緑氏のルワンダでの活動費の概要 (1月～12月)

#### 食費・ミルク代等 2,140 ドル

アタナジィ、アドリン、アルフォンシン、バレンティン、ベラミルク代

#### 医療費 371 ドル

#### 教育費 671 ドル

職業訓練授業料・教材費、高校授業料、マシン購入・授業料、文具費

#### 給与等 6,065 ドル

マルゴレッティ、ソーシャルワーカー、カウンセラー、牧師、夜警掃除夫

#### センター家賃・光熱水費 1,472 ドル

#### その他

交通費、備品購入費等

#### 1ヶ月平均経費 1,163 ドル

(竹内緑氏のルワンダでの生活費は含まれておりません。)

## ご支援・ご協力のお願い

会費及び寄付金のお願い

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費（会計年度1月1日～12月31日）

- ・会 員 一口 5,000 円
- ・賛助会員 一口 2,000 円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

### 会費・ご寄付の送金方法

#### ○郵便振込

（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

#### ○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801

ご連絡・お問合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局 〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1 日本キリスト教団八頭教会内 電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi_rwanda@yahoo.co.jp (竹内緑個人アドレス)
---